

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12506

研究課題名（和文）なぜ人々は聖水治療を求めるのか：エチオピア北部聖地の事例研究

研究課題名（英文）Characteristics and the experiences of the people who seek holy water cure at a religious site in northern Ethiopia

研究代表者

佐藤 美穂（Sato, Miho）

長崎大学・熱帯医学・グローバルヘルス研究科・准教授

研究者番号：40607256

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：合計171人の聖水を求めた人から得られたデータを分析した。健康上の理由で聖水を求める人は、そうでない人に比べて、身体的健康度（ $p=0.007$ ）と精神的健康度（ $p=0.015$ ）が低かった。初等教育（ $p=0.004$ ）を受けた50歳以上の回答者（ $p=0.032$ ）は、他の回答者よりも身体的健康度が低かった。30～49歳（ $p=0.033$ ）と公共交通機関を利用する人は、精神的健康度が有意に高かった（ $p=0.009$ ）。最後に、宗教的または伝統的なケアを最初に求めた人は、近代西洋医学的ケアを最初に求めた人よりも精神的健康度が高かった（ $p < 0.001$ ）。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、エチオピア北部の3か所の修道院において、1. 聖水を求める人々の特性、2. 聖水を求める人々の健康に関する生活の質、精神疾患の程度の評価、3. 聖水にたどり着くまでの治療行動、を明らかにした。特に調査地では、健康を訪問の理由に挙げた者が8割、若者、高学歴の者も少なくない、という訪問者の特性、ならびに、宗教的ケアを第一の治療と選択した者の精神的健康度が有意に高い、という結果が得られ、今後の調査地におけるヘルスプロモーション活動に示唆を与えることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the characteristics and quality of life of those seeking treatment with holy water. The data of a total of 171 people who sought holy water were analyzed. Those who sought holy water for health reasons had lower physical health ($p=0.007$) and mental health ($p=0.015$) than those who did not. Respondents over 50 years old ($p=0.032$) with primary education ($p=0.004$) had lower physical health than other respondents; those aged 30-49 ($p=0.033$) and those who used public transportation had significantly higher mental health ($p=0.009$). Finally, those who sought religious or traditional care first had higher mental health than those who sought modern Western medical care first ($p < 0.001$).

研究分野：公衆衛生学、人類学

キーワード：エチオピア 聖水 健康希求行動 K10 SF36

1. 研究開始当初の背景

「聖水」とは、エチオピア正教会の聖職者が祝福した水である。聖水は身体内部の清浄の象徴であるとされ、聖水に触れる人すべてを浄化させると考えられている。そのためエチオピアにおいて聖水は、あらゆる疾患の予防や治療を目的として一般的に使用されている (Aymero & Joachim, 1970; Kloos et al., 1987; Amberbir et al., 2008)。

近年、エチオピアの聖水治療は HIV 陽性者との関連において学術的に着目されるようになった。HIV 陽性者は、感染症と戦う能力を再生し、免疫機能を高めるため、抗レトロウイルス薬を毎日服用しなければならない。しかし、大規模な疫学調査によると、抗レトロウイルス治療脱落の原因の 3 割が聖水治療の希求によるものであった (Seyoum et al., 2009)。つまり、エチオピア正教会において、聖水は聖餐であり、それ以外のものを口にしてはいけないとされる (Berhanu, 2010; Hermann, 2012)。そのため、聖職者が聖水治療を求める者に薬の服用を中止することを勧める (Bezabhe et al., 2014)、あるいは聖水治療を求める者が自主的に薬の服用を中止するためである (Tiruneh, et al., 2016)。

HIV 以外では結核などの感染症、精神疾患、てんかん、そして顧みられない熱帯病など、先行研究の多くは、特定の疾病を持つ人々の聖水治療と西洋近代医学による治療の遅延との相関など、聖水治療を西洋近代医学による治療の阻害要因として論じるものが多い。しかし、これまで研究代表者は、エチオピアにおいて伝統・民間療法である聖水を、西洋近代医学による治療に相乗効果をもたらすものとして積極的に併用する人々の存在を当事者からの語りによって確認した (Sato, 2010; 佐藤, 2018)。そのため、今回の研究では、特定の疾患に焦点を当てるのではなく、聖地において、そもそも人々はなぜ聖水治療を求めるのか、そして聖水治療にたどり着くまでどのような健康希求行動をとってきたのかを明らかにするものである。

2. 研究の目的

エチオピア北部ティグライ州の 3 か所の修道院において、1. 聖水を求める人々の特性、2. 聖水を求める人々の健康に関する生活の質、精神的健康の評価、3. 聖水にたどり着くまでの治療行動、を明らかにする。

3. 研究の方法

定量的調査のデータ収集ツールを構築する。具体的には、ODK (Open Data Kit, 携帯端末を使い情報収集が可能なソフトウェア) に英語とアムハラ語による次の 3 種類の質問票を作成する。

- (1) 聖水治療を求める人々の特性：年齢、性別、民族、職業、聖地に到着した日、これまでの訪問回数、治療目的などについて対面で回答を得た。
- (2) 聖水治療を求める人々の健康関連 QOL (Quality Of Life)、精神的健康の程度：国際的に最も広く使用される健康関連 QOL 尺度であり、健康に関する 8 つの概念から構成される SF-36 を用いた。また、聖地には精神疾患を患う人々が多く訪れ、精神疾患が健康関連 QOL の交絡因子として作用することが報告されていることから、エチオピアにおいても高い妥当性が示された K10 尺度を使用した。K10 は 10 項目からなり、気分・不安障害のスクリーニング尺度として開発された質問票である。
- (3) 聖水にたどり着くまでの治療行動：構造化質問票を用い、研究参加者に、健康上の問題、治療を受けた場合の診断の有無、複数の場所で治療を受けた場合の順序などを尋ねた。分析においては、伝統的な治療者、漢方薬、特定の食品から受けたケアを「伝統的ケア」、健康問題に対処するための祈り、聖水、聖なる土によるケアを「宗教的ケア」、そして、保健普及員、公的医療施設、民間医療施設、民間薬局にケアを求めることを「西洋近代医学的ケア」と分類した。

4. 研究成果

(1) 聖水治療を求める人々の特性

合計 171 人の聖水を求める人々にインタビューを行った。そのうち 92 人 (53.8%) が女性で、79 人 (46.2%) が男性であった。参加者の年齢の中央値は 28 歳で、29 歳以下は 96 人 (56.1%) であった。学歴については、49 人 (28.7%) が中等教育以上の教育を受けていたが、35 人 (20.5%) は学歴がないか、就学前教育しか受けていなかった。参加者のうち 94 人 (55.0%) が独身で、164 人 (95.9%) がティグライ地方出身、47 人 (27.5%) がデータ収集時に無職であった。参加者の入院期間はさまざまで、8~49 日の間に入院した患者が 57 人 (33.3%)、入院期間不明が 49 人 (28.7%) であった。

- (2) 聖水治療を求める人々の健康関連 QOL (Quality Of Life)、精神的健康の程度
身体的健康と精神的健康の総合得点の中央値は、それぞれ 52.8 点 (範囲、29.3~68.2 点) と 36.7 点 (範囲、19.6~61.7 点) であった。身体的健康については、50 歳以上 (p=0.034) と初等教育 (p=0.020) を受けている人は、受けていない人に比べて QoL が有意に低かった。一方、聖地に長く滞在した人 (p=0.021)、健康以外の理由で聖地に来た人 (p=0.008) は、健康上の理由で来た人よりも QoL が有意に高かった。精神的健康については、女性 (p=0.010)、離婚・別居・寡婦 (p=0.050)、健康上の理由で聖水を求めた人 (p=0.011)、最初に生物医学的ケアを求めた人 (p=0.003) は、他の人より QoL が有意に低かった。
心理的苦痛を測定するための K10 スコアでは、171 人の参加者の中央値は 19 点 (四分位範囲 : 10~50) であった。87 人 (50.9%) の参加者は健康であると考えられたが、84 人 (49.1%) はある程度の精神的苦痛を経験している可能性が高かった。
- (3) 聖水にたどり着くまでの治療行動
研究参加者の中で最も一般的であったのは、まず公的保健医療施設にケアを求め (n=76)、次に聖水 (n=33) を求めるパターンである。続いて最初に聖水を求め (n=69)、その後公的保健施設にケアを求めるパターンであった (n=16)。伝統的な治療から始めた人はほとんどいなかった。

本研究から、実際に聖水を求める人々の特性、身体的、精神的健康の QOL、さらに彼らがどのようにケアを求めるかのパターンについて明らかになった。特に聖水を求めていた人々のうちその 8 割が健康問題のために聖水を求めていること、半数の研究参加者が、ある程度の精神的苦痛を有していることは、今後のメケレ市近郊における人々の精神保健の向上のために示唆を与えるものである。

<引用文献>

- Aymero, W. and Joachim, M., 1970. *The Ethiopian Orthodox Church*. Addis Ababa: the Ethiopian Orthodox mission.
- Kloos, H., Etea, A., Degefa, A., Aga, H., Solomon, B., Abera, K., Abegaz, A., & Belemo, G. (1987). Illness and health behaviour in Addis Ababa and rural central Ethiopia. *Social Science & Medicine*, 25(9), 1003-1019. [https://doi.org/10.1016/0277-9536\(87\)90005-0](https://doi.org/10.1016/0277-9536(87)90005-0)
- Amberbir, A., Woldemichael, K., Getachew, S., Girma, B., & Deribe, K. (2008). Predictors of adherence to antiretroviral therapy among HIV-infected persons: a prospective study in Southwest Ethiopia. *BMC Public Health*, 8:265. <https://doi.org/10.1186/1471-2458-8-265>
- Seyoum E, Mekonnen Y, Kassa A et al. (2009) ART Scale-Up in Ethiopia: Success and Challenges Federal HIV / AIDS Prevention and Control Office, Addis Ababa, Ethiopia.
- Berhanu, Z. (2010). Holy Water as an Intervention for HIV/AIDS in Ethiopia. *Journal of HIV/AIDS & Social Services*, 9:3, 240-260. <https://doi.org/10.1080/15381501.2010.502802>
- Hermann-Mesfen, J. (2012). *L' Implication Du Christianisme Ethiopien Dans La Lutte Contre Le Sida: Une Socio-anthropologie de la 'guerison'*. Ph.D. Thesis, Aix-Marseille Université, Marseille, France.
- Bezabhe, W. M., Chalmers, L., Bereznicki, L. R., Peterson, G. M., Bimirew, M. A., & Kassie, D. M. (2014). Barriers and facilitators of adherence to antiretroviral drug therapy and retention in care among adult HIV-positive patients: a qualitative study from Ethiopia. *PLoS one*, 9(5), e97353. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0097353>
- Tiruneh YM, Galárraga O, Genberg B, Wilson IB (2016) Retention in Care among HIV-Infected Adults in Ethiopia, 2005- 2011: A Mixed-Methods Study. *PLOS ONE* 11(6): e0156619. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0156619>
- Sato, M. (2010). Barriers and Factors Facilitating Adherence to Antiretroviral Therapy from the Perspectives of the Patients in Mekelle City, Tigray Region, Ethiopia. MPH thesis. Seattle, University of Washington.
- 佐藤美穂. (2018). 「エイズと聖水—HIV の治療活動に携わる NGO の活動—」. 宮脇幸生編. 『国家支配と民衆の力—エチオピアにおける国家・NGO・草の根社会—』. 大阪公立大学出版会. 151-183 ページ.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 佐藤美穂	4. 巻 8
2. 論文標題 ティグライ戦争 現地で起きている「人道危機」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 159 - 182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 佐藤美穂
2. 発表標題 The background characteristics and their health-seeking quantitative analysis of those who gather at three holy water sites in Tigray Ethiopia
3. 学会等名 2022 American Anthropological Association Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤美穂
2. 発表標題 「なぜ人々は聖水治療を求めるのか：エチオピア北部聖地の事例研究」現地調査報告
3. 学会等名 エチオピア資源の重層的ガバナンス研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本田 純久 (HONDA Sumihisa) (90244053)	長崎大学・医歯薬学総合研究科（保健学科）・教授 (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
エチオピア	Tigray Health Research Institute			